

## 第 25 期第 4 回物理学委員会 議事録

日時:令和 3(2021)年 2 月 10 日(水)18:00~20:00

場所:オンライン(主会場東工大)

出席者(29 名中 26 名):

野尻美保子(委員長), 腰原伸也(副委員長), 田村裕和(幹事), 山崎典子(幹事), 山崎(幹事), 梶田隆章, 森初果, 浅井歩, 浅井祥仁, 飯島徹, 板倉明子, 市川温子, 岡眞, 川上則雄, 櫻井博儀, 須藤靖, 瀧川仁, 田島節子, 常行真司, 永江知文, 林正彦, 深川美里, 藤澤彰英, 松尾由賀利, 観山正見, 山内正則, 渡部潤一

(欠席:川村光, 相原博昭, 五神真)

(敬称略)

### 1. 委員長挨拶および委員紹介

委員長挨拶, 幹事団の紹介, 25 期から委員となった方々の紹介が行われた。

### 2. 日本学術会議と物理学委員会の1月までの状況について

委員長より, 資料に基づき 2020 年 10 月以降の学術会議全体, 物理学委員会関係の動きの説明があり, また 2 月 27 日開催予定の学術フォーラム危機の時代における「アカデミーと未来」について紹介があった。

梶田委員より状況説明をいただいた。4 月の総会にむけ外からの意見も取り入れ, 幹事会で作成した中間報告を update している。3 月に内容がかたまりしだい, 会員と意見交換の場も設ける予定である。連携会員の皆さんから意見があれば, 会員に集約するなどをお願いしたい。

Q(須藤)任命問題について, 落とし所は見えているのか?

A(梶田)政府側の反応は報道の通りで, 膠着状態になっている。

野尻委員長より, 川村委員から委員長を交代した経緯の説明があった。委員から委員会あるいは学術会議として経緯の確認と判断があるべきではないか, という意見があり, 幹事団で対応することにした。

### 3. 関連委員会, 分科会報告

#### 3-1 物性物理学・一般物理学分科会(森)

第 1 回分科会を 1/21 に行ない, 幹事団を選出した。24 期の活動報告, 25 期の活動方針について議論を行ない, プラズマサイエンス小委員会の設置を上申することになった。

#### 3-2 素粒子物理学・原子核物理学分科会(浅井 S)

第 1 回分科会を 1/20 に行なった。幹事団を選出, 25 期の活動方針, マスタープラン等への対応について意見がだされた。基礎科学, 人材育成等を重視する。

### 3-3 IUPAP 分科会(藤澤)

1/26 に第 1 回分科会が行われた。幹事団の選出, IUPAP C&CC が 1 年延期されたことにより, 1 年任期が延長されたこと, コミッションの状況について共有した。C6 と日本生物物理学会との協力を深めることになった。IUPAP100 年への対応について, 検討グループを作り進めることになった。

### 3-4 天文学・宇宙物理学分科会(山崎)

12/3 に第 1 回, 2/10 に第 2 回分科会が行われた。幹事団の選出, 25 期の活動方針が話し合わせ, 24 期のフォローとしてのキャリアパスアンケート結果の公開, コミュニティとの連携を強める方策, 大型中期計画案の策定について, などが議論されている。

### 3-5 IAU 分科会(山崎)

12/3 に第 1 回, 2/10 に第 2 回分科会が行われた。幹事団の選出, 25 期の活動方針が話し合わせ, また IAU 国内委員会として新会員, 名誉会員の選出, 総会や各種シンポジウムの状況の共有が行われた。

### 3-6 物理教育研究分科会(岡)

1/27 に第 1 回分科会が行われた。幹事団の選出, 25 期の活動方針が話し合わせ, 覧具氏を特任連携会員に推薦する。また笹尾委員により 3/14 に物理学会年次大会で総合講演が行われる。

### 3-7 第 3 部理工学ジェンダーダイバーシティ分科会(野尻)

多様性の不足が分野の問題であるという認識から, 今期は、提言発出を目指して、グッドプラクティスの分析を行う。

### 3-8 第 3 部拡大役員会(野尻)

1/28 に拡大役員会が行われた。来年度の予算執行方針も今年度同様の見込みで、旅費と手当の融通などは行われぬ。夏季部会については、2021 年度は web 開催でジェンダーダイバーシティをテーマに行なうことが検討されている。

素核分科会でのマスタープランの審査の方式, 更新頻度等に関する問題提起に対し, 議論が行われた。学術会議マスタープランの果たしている役割について, 経緯やロードマップとの違い等も含め認識した上で, 制度をさらに良いものにしていく提案をするべきであるという意見がでた。素核分科会内でまず意見をとりまとめ、天文宇宙から観山委員、物一から森委員が入って議論した上で、物理学委員会で議論を行う。

## 4. 京都大学数理解析研究所運営委員、専門委員の推薦について(報告)

数理解析研究所より、運営委員一名、専門委員2名の推薦依頼があり、推薦を行ったことを説明した。

## 5. 共同利用・共同研究拠点について(報告)

東京大学物性研究所の共同利用・共同研究拠点申請について、H27 の申請時に物理学委員会から支持を表明する書面をだした。今年度も物理学委員会の委員長名で同様の書面をだすことについて報告した。

6. 特任連携会員の申請について

資料に基づいて、覧具博義氏を特任連携会員とし、物理教育研究分科会委員とすることについて審議を行ない、異議なしということで承認された。

7. プラズマサイエンス小委員会提案について

資料に基づき、森委員、藤澤委員より説明が行われた。分野の重要性、多様性に鑑み、物性物理学・一般物理学分科会の下に総合工学委員会および数理科学委員会を横断する小委員会として設置することについて、審議を行い、承認された。提案書について事務的な確認、修正の後に物理学委員会として提案を行なう。

8. 25 期活動見直しと 25 期の委員会を跨いだ連携について

3 部拡大委員会に提出する内容について、野尻委員長によるサマリーが示され、各分野別に、分科会での取りまとめ内容について報告があった。分野横断的な課題については、人材育成やキャリアパスについての具体的な支援方策、科学について社会の理解を得るための活動、初等中等教育や、STEM 分野における discipline-based education research の推進、ジェンダーギャップ、ゼロエミッションを目指した研究開発の基盤整備等が挙げられた。

9. 物理学会のインフォーマルミーティングに関して委員長から紹介された。

10. その他

- 議事録の承認について、委員回覧・修正を行なった後に最終確定は委員長承認にて行ない、8 週間以内に提出することについて承認された。

- 委員のメールアドレスを共有することについて幹事団より提案し、承認された。

以上